

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京医科歯科大学大学院						
教育プログラム・コース名	ゲノム医療者養成コース						
対象者	医歯学総合研究科大学院生、保健衛生学研究科大学院生（大学院）						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<p>①がんゲノム医療における基礎医学の知識を身につけ、トランスレーショナルリサーチの現場で基礎研究者と協働できる医療者・人材</p> <p>②プレジジョンメディシンの実践において、ゲノム診断の結果を適切に解釈し治療に反映することのできる医療者・人材（Molecular Tumor Board構成メンバー等）。</p> <p>③プレジジョンメディシンの実践において、患者・家族に対して適切な情報提供・共有をし、治療を継続できる医療者・人材</p>						
修了要件・履修方法	各自の専門領域必修科目および下記の追加必修項目を含めて、30単位以上を履修し、学位論文を提出の上、審査、最終試験に合格すること						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt; 所属分野の必修18単位に加えて、本プランのがんの分子生物学、がん薬物療法の2単位+実習1単位</p> <p>&lt;選択科目&gt; 所属分野以外の6単位に加えて、本プランの臓器別がん治療、放射線基礎、緩和基礎、総合演習から3単位</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>本学においては、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランによって臨床腫瘍学分野を開設し、がん化学療法緩和と緩和ケアに関わる教員を内製化した。当分野を中心に、AMEDの「バイオバンクを有効活用したクリニカルシークエンスの実践及び臨床情報とゲノム情報の多施設間統合データベース構築」を実践しており、今年度からは、実臨床においてがんの遺伝子診断を開始する。また、附置研究所の難治疾患研究所は、複数のがんゲノム研究者（バイオインフォマティクスを含む）を擁しており、医学部附属病院で開始予定となっているMolecular Tumor Boardへ参画する予定である。これらの臨床実践のフィールドが整備されつつあることが本学の特色であり、これを基盤として、今までのがんプロで構築してきたコースワーク（他大学との交換講義、遠隔講義も含む）を継続・再構成することによって、On the Job Trainingも視野に入れた教育体制を整備する。</p>						
指導体制	<p>大学院の分野である臨床腫瘍学分野を中心に、がん化学療法を担当する腫瘍内科教員が指導を行う。同時に関連する分野・診療科（外科系、内科系、歯科口腔外科、放射線治療科など）と協働することにより、がん薬物療法専門医取得の体制も構築する。今後は病院組織である腫瘍センターの化学療法部門をプレジジョンメディシンセンターとして、発展・再構成する計画もあり、縦糸のがん関連分野・診療科と横糸の臨床腫瘍学分野、腫瘍センターさらには臨床検査医学部門（遺伝子検査の内製化を視野に）が有機的に協働する指導体制を構築する。同時に、連携大学間の交換講義、遠隔講義、施設見学実習等も有効に活用できる体制を整備する。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腫瘍内科医（がん薬物療法専門医）</li> <li>・がん関連診療科の医師・歯科医師</li> <li>・遺伝カウンセラー</li> </ul>						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	3	3	3	3	12
	計	0	3	3	3	3	12